

自然とともに生きる

オーストラリア先住民の文化と暮らし

オーストラリアの先住民に伝わる「ドリームタイム」の物語の中でも有名なのが、虹色の蛇（レインボーサーペント）の伝説です。虹色の蛇は大地を旅して、その通ったあとが川や谷や山になり、世界の形を作った存在とされています。また、水や命をつかさどる大切な存在で、雨や自然とも深くつながっています。一方で、掟を破る者には罰を与える恐ろしい力を持つと信じられていました。この物語は自然への敬意やルールを守る大切さを伝える教えとして、今も語り継がれています。



このようなドリームタイムの考え方を大切にしてきたオーストラリアの先住民（アボリジニの人々）は、少なくとも約6万年以上前からオーストラリア大陸に暮らしてきたといわれています。長い間他の大陸と切り離されていたため、独自の文化や言語、生活様式が発展しました。

オーストラリアには数百もの部族が存在し、それぞれが異なる言語や伝統、信仰を持っていました。地域によって気候や自然環境が大きく異なるため、砂漠、熱帯、海岸など、それぞれの土地に合わせて生活していました。また、「ドリームタイム」と呼ばれる神話的な世界観を大切にし、自然や動物と深く結びついた精神文化を持っていることも特徴です。





食文化も地域ごとに大きく異なります。カンガルーやエミューなどの動物の肉に加え、魚や貝、虫、果実、ナッツ、根っこなど、多様な自然の食材を取り入れていました。特に「ブッシュフード」と呼ばれる野生の食材は重要で、例えばウィッチェッティグラブという幼虫は貴重なたんぱく源とされていました。調理は火を使って焼くことが多く、地面に穴を掘って蒸し焼きにする方法などもありました。このように、先住民の生活は自然への深い理解と知識に支えられていました。



マルチ三重 
Multicultural Mie

Multicultural Mie